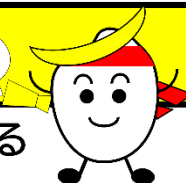


「ささえーる」ポイント集

宮城の児童生徒の
主体的な成長・発達を



ささえーる

児童生徒や学級・学年
の実態例

働き掛けの類型①【場や機会の設定で支える】

課題を自分事として捉える意識が低い。

自分から進んで活動に参加しようとする意欲が低い。

意見の共有や、集団での目標設定で活動が終わりになってしまい、行動や実践につながらない。

振り返りを、他者と共有する機会がない。

意識の持続が難しい。

短学活の活動プログラムが形式化している。

上級生への「憧れ」や下級生への「感謝」の気持ちを持たせるきっかけがない。

委員会活動など児童会・生徒会活動の内容が形式的になってしまっている。

「ささえーる」ポイント	主なねらいと指導上の留意点	「ささえーる」ポイントに対応している指導プログラム案
①-1 教員主導ではなく児童生徒が課題を設定する。	児童生徒が課題を自分事として捉える意識を高めるために、課題を教員から与えるのではなく、児童生徒が課題設定を行う場面を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> ・聞きたい言葉、いやな言葉 ・学級生活を充実させよう ・級友とよりよい人間関係を築こう ・合唱コンクールを成功させよう
①-2 児童生徒の意見・要望・疑問に耳を傾ける。	「私一人が言っても変わらない」という気持ちにさせないため、児童生徒が「自分の意見が大切にされた」と感じる経験を積み重ねられるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生を送る会を成功させよう ・自発的・自治的な委員会活動を目指して ・学級の実態に合った朝の会・帰りの会の活動プログラムを考えよう
①-3 意見の共有・集団の目標設定を自己決定へつなげる。	学級や委員会など、集団で共有した意見や設定した目標を実践につなげるために、「集団のために自分は〇〇する」という個人の自己決定を行う場面を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> ・聞きたい言葉、いやな言葉 ・学級目標を決めよう ・学級生活を充実させよう ・合唱コンクールを成功させよう
①-4 振り返りは自己評価に加え、仲間と認め合う活動を取り入れる。	振り返りが形式的な活動にならないよう、仲間を認めたり、仲間から認められたりする経験を積み重ねる場を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学級生活を充実させよう ・運動会の振り返りをしよう ・合唱コンクールを成功させよう
①-5 振り返りと自己決定を結び付ける。	振り返りが形式的な活動にならないよう、これからの生活の向上にどのように結び付けていくのかを自己決定させるまでを一つの流れとして設定する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学級生活を充実させよう ・卒業生を送る会を成功させよう ・合唱コンクールを成功させよう
①-6 短学活の活動プログラムを、児童生徒とともに検討する。	集団としての自治的な力を高めるために、児童生徒が学級の実態や課題を考えながら、どのような内容を短学活に組み込めばよいのかを話し合う場面を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学級の実態に合った朝の会・帰りの会の活動プログラムを考えよう
①-7 異年齢交流を取り入れる。	上級生への「憧れ」と下級生への「感謝」の気持ちを育むために、行事や委員会活動等で、異年齢で交流する場面を積極的に取り入れる。	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生を送る会を成功させよう ・自発的・自治的な委員会活動を目指して ・運動会の振り返りをしよう
①-8 活動を校外に発信する。	児童生徒が学校で行っている活動の価値を自覚させるために、活動を校内にとどめずに、校外でも行ったり、活動内容を発信したりする場面を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自発的・自治的な委員会活動を目指して

児童生徒や学級・学年の実態例

働き掛けの類型②【手段や方法の例示で支える】

話し合いが深まらない。すぐに多数決で意見が決定してしまう。

言語環境がよくない。児童生徒の安心感が低いため、自分の意見を堂々と述べることにためらいがある。

「ささえる」ポイント	主なねらいと指導上の留意点	「ささえる」ポイントに対応している指導プログラム案
②-1 「合意形成の例」を提供し、多数決に頼らない合意形成を促す。	児童生徒に合意形成に必要な考え方やポイントを身に付けさせる。「合意形成の例」を渡すだけでなく、活用の仕方とあわせて指導する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学級目標を決めよう ・学級生活を充実させよう ・合意形成の図り方を理解しよう
②-2 「仲間同士で褒める・認める言葉集」等を提供し、児童生徒同士の絆づくりを促す。	児童生徒同士で仲間を褒めたり、認めたりする際のポイントを身に付けさせる。「仲間同士で褒める・認める言葉集」等を渡すだけでなく、学級活動や行事等で実践する機会を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> ・聞きたい言葉、いやな言葉 ・仲間同士で褒める・認める言葉を贈り合おう ・級友とよりよい人間関係を築こう

働き掛けの類型③【声掛けで支える】

児童生徒に対して褒める言葉や認める言葉を掛けても心に響かない。

コミュニケーションや対人関係をつくるのが苦手な児童生徒が集団生活に適応できていない。

集団に埋もれてしまい、活躍の場面が少ない児童生徒が見られる。

「ささえる」ポイント	主なねらいと指導上の留意点	「ささえる」ポイントに対応している指導プログラム案
③-1 心に響くポイントを理解した上で褒める・認める言葉を掛ける。	「褒める・認める言葉集」を活用し、言葉が児童生徒の心に響くポイントを理解した上で児童生徒を褒め、認める。	<ul style="list-style-type: none"> ・学級生活を充実させよう ・児童生徒の心に響く褒め言葉・認める言葉を掛けよう
③-2 児童生徒の実態や特性に応じて声を掛ける。	日常の観察やコミュニケーション等からの児童生徒理解に基づき、その児童生徒が自分自身の得意や不得意、可能性を自覚できるような声掛けを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の心に響く褒め言葉・認める言葉を掛けよう ・肯定的な声掛けで児童生徒を支えよう
③-3 自己表現が苦手な児童生徒や、活動に消極的な児童生徒に焦点を当てる。	全ての児童生徒に声を掛けているか振り返り、意図的に働き掛けを増やす取組につなげる。焦点化して支援することで、自己肯定感の高まりにつなげる。	<ul style="list-style-type: none"> ・キラリ発見シートで、児童生徒理解を深めよう ・肯定的な声掛けで児童生徒を支えよう